李瑞雪・史念・兪嶸　共著
中国経済ハンドブック2004
〈全日出版株式会社・二〇〇三年四月〉

本書はこれから中国経済を繙こうとする一般の人やビジネスマン、学生のために書かれた入門書であり、活字を大きくし、簡潔な文体を使用して、読者が読みやすいように工夫が凝らされている。その意味では、手軽に座右において基礎的な参考図書として使うのに便利である。ただ通常のハンドブックと異なり、中国経済の主要テーマについての概説部分と各地域の紹介からなっている。これは、中国経済の領域が広すぎることと中国での地域のもつ重要性が重視されているためである。

本書は二部から構成されている。

第一部では中国経済の概説が試みられている。第一章は二一世紀の中国経済をどう見るか、第二章はWTO加盟と中国の経済発展、第三章は西部大開発戦略の展開、第四章は電子情報と情報化の進展及び展望、をそれぞれ扱っている。今後の中国をどう見るかについては、中国は特殊の国から普通の国に脱皮しつつあり、普通の国の視点が重要であることが強調されている。そして今後の中国経済を展望するには鍵となる課題に焦点を当てることが重要であるとし、それが各章のテーマが取り上げられた理由となっている。これらのテーマはすべて非常にタイムリーなものであり、分析も確かであり、読者はそれぞれの背景・現状・展望を的確に把握することができる。附表の各省の経済実力ランキング、二〇〇一年度電子情報関連企業上位二〇社、省別中期経済発展計画の統計も参考になる。

第二部では中国の各地域を東部地域、西部、中部にわけ、それぞれの各省、特別市、自治区についての経済動向を紹介している。内容はすべて統一されており、最初の頁に立地地図と基本データが掲載され、本文では自然と社会概況、二〇〇二年の経済発展と主要産業の特徴、今後の政府開発方針についての三項目について数頁が割かれている。各地域の各省を詳しく知りたいと思う人には若干物足りないが、各省の基本は押さえられるのでこれをベースに詳しい文献に進めばよい。

通常の経済ハンドブックは、経済の各項目（テーマ・分野別）についての概説的な解説があり、読者が必要なものを調べるときに参照できる性格のものである。これに対して本書はハンドブックと銘打っているが、経済の概説書とハンドブックの折衷を試みたものといえる。その点で両方のニーズを満たしているが、若干消化不良を感じるところがあるかもしれない。例えば、各省の紹介の後に、経済的特性を考慮してのいくつかの地域別の経済発展の違い、特徴、今後の潜在性などの展望が加えられれば読者の関心も増すであろう。というのは、中国の巨大さを考えると、各地域の経済的補完性などを考慮したいくつかの地域別の経済圏・経済単位を考える意義は大きいからである。

（山本一巳）